

今年度は「家族支援について考える」をテーマに取り組みます。

令和2年度

みょうこう ケアフォーラム

通信



初のオンライン開催！ 令和2年度みょうこうケアフォーラムを開催しました！

- 日 時：令和3年3月4日(木)18時30分から20時00分
- 会 場：オンライン開催・妙高市役所
- 参加者：31名(介護ネットワーク事業所、医療機関、薬局、福祉用具事業所等)

概要

今回は、昨年度からのテーマである『本人・家族のものがたりの理解と家族支援』を考えました。みょうこうケアフォーラム初のオンライン開催であり、画面越しでの座談会やグループワークになりましたが、和やかな雰囲気のもと、活発な意見交換が行われました。

「本人だけでなく、ご家族との関係づくりも意識して取り組みたい」「改めて傾聴することの大切さを感じた」などの感想がありました。

実施後アンケートでは、ほとんどの人が「日頃の支援を振り返る機会になった」「フォーラム内容に満足した」と回答しており、オンライン上でも“つながっている”と実感しました。

座談会

- テーマ 「本人・家族のものがたりの理解と家族支援について」
- 《出演》 みなかみの里 吉村 美岐さん
てるてるぼうず 長崎 祐子さん
在宅介護支援センター新井愛広苑 山本 友美さん
- 《進行》 妙高市地域包括支援センター 長谷川 美代

身体的、精神的に大変さを感じながらも、家で見ていきたい想いを持ったAさんご家族の事例を通し、ご家族への支援時に大切にしていたことや支援を終えた今だからこそ、大事だったと感じることについて座談会を行いました。

- ご本人やご家族の話を否定せずに聴き、話して貰える関係づくりをする。
- 介護者を「介護する人」として見るのではなく、「〇〇さん」として関わる。
- 腑に落ちないところに物語があると考え、ご本人やご家族の物語を知る。
- ご本人やご家族の支えを知る。
- サービス調整による介護負担の軽減を行う。
- 多職種チームの一体感で家族を支援する。



G W

6グループに分かれて「家族支援における本人・家族のものがたりの理解」を考え、発表しました。



日頃の家族支援で意識していることや難しいと感じていることなど、グループ内で自由に意見交換し、家族支援に対する意見をまとめていきました。



グループ発表では、皆さんの日頃の想いを共有することができました！

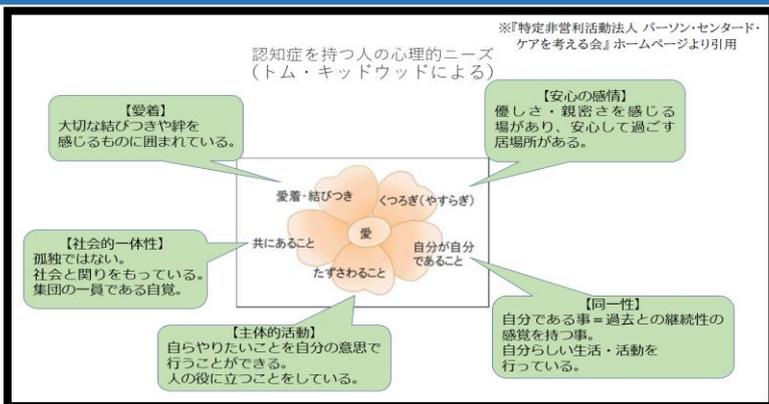
- ・本人と家族でも、物語は異なる。それぞれを主人公に考えていきたい。
- ・はじめからあれこれ聞き過ぎないように気を付けている。謙虚に知る気持ちを持って関わるのが大切。
- ・傾聴だけでなく、世間話や自身の経験を伝えることで、信頼関係を築いている。
- ・各々の職種で見えるものは異なる。情報共有をして、連携して関わっていくことが大切。

まとめ

みんなに愛されている・大切にされている自分を感じることが、満足感に繋がる。



まとめは、実行委員会の揚石先生



～家族支援の視点～

■『人と人』という視点で関わりを持つ。

⇒介護をしているAさんとして見るのではなく、Aさん自身をみて、Aさんに関心を寄せる。

■人は心理的ニーズが満たされると幸せを感じる。心理的ニーズを満たすためには、5つの要素(①愛着 ②社会的一体性 ③主体的活動 ④同一性 ⑤安心の感情)が必要。トム・キッドウッドによる認知症を持つ人の心理的ニーズは、全ての人に当てはまる。

■5つの要素が満たされる = 皆に愛されている、皆に大切にされていると感じる。



今年度のケアフォーラムは、初のオンライン開催でしたが、皆さまのご協力があり、無事開催できました。ありがとうございました。今回の取り組みを活かし、来年度のケアフォーラムに向けて、実行委員会で企画していきますので、どうぞお楽しみに！

